



# 興<sup>こう</sup>照<sup>しょう</sup>寺<sup>じ</sup>報<sup>ほう</sup>

平成30年11月

67号

発行 浄土真宗 興 照 寺  
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号  
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303



- 一頁 『ご縁（つながり）』
- 二頁 吹上「龍泉寺」紹介
- 三頁 報恩講について、職員紹介
- 四頁 行事案内



西郷屋敷跡（西郷公園）〈武二丁目〉

西郷南洲翁は、明治二年、この地に家族ともども移り住まれました。その後明治政府に請われ上京し、政府草創期に尽力されましたが明治六年下野し、明治十年二月の西南の役出兵まで居住されました。現在すぐ近くを新幹線が通り、すっかり様変わりしました。

## 『ご縁（つながり）』

”縦の糸はあなた 横の糸は私  
織りなす布は

いつか誰かを暖めるかもしれない

織りなす布は

いつか誰かの傷をかばうかもしれない

縦の糸はあなた 横の糸は私

遇うべき糸に 出逢えることを

人は仕合わせと呼びます”

中島みゆきさんの作られた『糸』という

歌の歌詞です。

人は皆、たくさんのつながりの中で生きています。家族、友人、地域の人たちなどなど、多くのご縁に結ばれて生きています。そのご縁の中で生まれ、過去・現在・未来のつながりの中で存在し、生かされているのが私たちです。

「生まれてきてよかった」「生きてきてよかった」と思える根本は、私たちの人生を作りだしてくれている”ご縁“に心から感謝できることでしょう。

「南無阿弥陀仏」は心からの感謝の言葉です。  
(英憲記)

# 吹上「龍泉寺」の紹介

お参りに行きますと「吹上のお寺はどんな所ですか」と聞かれることがよくあります。

今回はいい機会ですので、「吹上郷土誌」の寺院欄資料の引用をもとにご紹介したいと思います。

## 「龍泉寺」

日置市吹上町永吉三五三三

(下草田・井久保)

歴代住職

田畑 篤雄

田畑 貞照

田畑 鸞仰

瀬川 英明

昭和五十五年以後、

鹿児島興照寺住職の兼務

(平成三十年瀬川英清就任)

以前、永吉(下草田・間庭)

に「田畑布教所」あり、別名「下ん門のお寺」とも「田畑のお寺」とも呼ばれていた。

昭和十二年 本堂落慶(現在地)

昭和十七年 寺院創立

興正寺派龍泉寺



昭和二十七年

包括宗教法人興正寺より、宗教法人浄土真宗龍泉寺として離脱

以後単立法人となる

昭和十七年の寺院創立意見書に、「開教以来既に五代七十余年の久しきに及び」と、見られるように寺院創立以前に下草田・間庭の地に於いて永くお念仏を継承し集いしところ田畑初代住職先祖の方々が頼娃の勝縁寺、吹上中之里の厳浄寺の衆徒となり「田畑布教所」として教化に務めたもよう。尚、想うに

旧地の間庭地区はかくれ念仏窟(現在下草田公民館裏)、「アングダ《あみだ?》坂」と、かくれ念仏の名残が多く、「田畑布教所」は、かくれ念仏の信徒の講の開放発展したものとと思われる。

と、「吹上郷土誌」資料にあります。



昭和五十五年以来、四十年近く父、長男夫婦、次男夫婦、私共夫婦と受け継いで住持して参りました。私共夫婦は三十年余になります。おかげさまで門徒・地域の方々にかわいがら



れ、お寺の季節の法要のほか花祭り、ランドゴルフなども恒例の催しとして取り入れ親しみの持てるお寺に励んでいます。ぜひ、近くにいらしたらお寄りください。(英清記)



## 報恩講のご案内

・ 期日 十一月二十五日(日)  
 ・ 時間 朝席 九時半より  
           昼席 二時より  
 ・ 講師 黒田 先生(熊本県)  
 朝席終了後、午後一時半まで  
 「お齋(精進料理・五百円)」  
 があります。

### 【報恩講】とは

言葉を分解すると『報恩』と『講』に分かれます。

現代では、『報恩』という言葉も聞いてあまりピンと来ないかもしれませんが、そもそも恩という言葉自体も、馴染みのない言葉になりつつあるような気がします。皆さんはどなたかに恩を感じていることはありませんか？恩という字は「因(もと)」と「心(こころ)」で構成されています。この私がかここで生きてこられたのは誰のおかげなのか、何に支えられているのか、自分に向けてられた、届けられた恩を知ることでは無いなあと感謝の心が起る、その原因を知る心が恩という言葉です。さら

に『報恩』とは恩に報いるという意味です。特に、浄土真宗で使われている『報恩』とは、宗

祖親鸞聖人の恩に報いることを指しています。その宗祖に対する恩とは、「とりわけ、この私を救わずにはいられない仏様(阿弥陀仏)のはたらきを知り、気づき、その教えを脈々と伝え、私たちに生きるよりどころ(道)を示し、阿弥陀仏の念仏をすすめていただいた」という恩です。『講』には仏教を講ずる法会、人々の集まりというニュアンスがあります。

当寺報恩講は毎年十一月に行われます。これは親鸞聖人のご命日が、旧暦の十一月二十八日であるからです。(新暦に置き換えて一月にお勤めしている宗派もあります)

宗祖である親鸞聖人のご命日・報恩講とは、阿弥陀様の教えをいただいた私たちが、常に生活の中で、感謝と報恩の心によって成り立っているのだと気付かせていただく場でありませう。ぜひ報恩講のお参りをしていただきたいと思えます。

(明彦記)

## お齋

報恩講の時に出来る精進料理を「お齋(とき)」と言います。当寺の報恩講でもお出ししています。婦人会の方々にお手伝いいただき、毎年好評を得ています。ぜひご賞味ください。



## 追弔法要のご案内

報恩講の際、昨年十一月より本年十月までに亡くなられた方々の追弔の法要を午前十一時半より勤めます。

ご遺族の方々、多数ご参加ください。

## 職員紹介

瀬川 明彦 (三十六歳)  
 (住職瀬川英憲の長男)



約十三年間の会社勤めを経て、十月より入寺致しました。現在、法務について日々勉強中です。家族構成は妻、二人の子供(小三娘、幼稚園年長息子)の四大家族。趣味は家族団らん、スポーツ観戦、バラエティ番組鑑賞、温泉等々。中でも家族との時間はこれからも一番大事にしたいです。

今後は、会社勤めの経験を活かしながら、地域に開かれた親しみやすいお寺を目指し、精進して参りたいと思えます。至らぬ点も多いですが、家族共々、よろしく願っています。

・講師 田中 昭文先生 (福岡県)

(○のある日時にあります)

三月	十八日(月)	十九日(火)	二十日(水)	二十一日(木)	お中日
午前	○	○	吹上	○	○
午後	○	吹上			○

平成三十一年春季彼岸会法要

平成31年行事予定

十二月	十一月	十月	九月	八月	四月	三月	一月
三十一日(火)	二十四日(日)	十九日(土)と 二十日(日)	二十三日(月) (月:お中日)	十三日(火) 十五日(木)	七日(日) 二十日(土)と 二十一日(日)	十八日(月) 二十一日(木) (木:お中日)	一日(火)
除夜会	報恩講・物故者追弔法要	秋季永代経法要	秋季彼岸法要	盆 (一部地域は日が違います)	春季永代経法要	和順会総会・花祭り・帰敬式	修正会 (正月法要)

花祭り

・日 四月七日(日)

・時間 十一時より

・場所 興照寺

(和順会総会も合わせて行います)

・花祭り関係諸募集

余興参加者(踊り・カラオケ・詩吟・楽器 演奏)等の参加者を募集します。

ふるってご参加ください。

平成三十一年のご法事

左表の下の年に亡くなられた方が、それぞれの年回忌法要に当たっております。

一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十五回忌	平成七年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年

〔ご法事の日どり、時間、場所等〕は早めに寺にご相談ください。〔

帰敬式参加者

帰敬式とは法名を受ける式です。法名は本来生前に受けるものです。

当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。

帰敬式の受式希望の方、花祭り余興参加希望の方は、三月三十一日までにご連絡ください。

カレンダー 「心のともしび」

西本願寺の鹿児島教区懇談会が毎年発行しているカレンダー「心のともしび」を同封しました。当寺では、これまで報恩講の懇志のお礼にお渡ししていましたが、今年から門徒の皆さん全員にお届けすることにしました。心にしみる言葉が載っています。お使いください。



婦人会の方々がカレンダーのシール貼りを手伝っていただきました

あ)と)がき

大河ドラマ「西郷どん」が大詰めに近づいてきました。人間関係の難しさ、そしてそれぞれの立場の違いを乗り越えることの厳しさを感じさせられました。

(英憲記)